

2010年11月15日  
新日本製鐵株式会社

**Nippon Steel Pipe Vietnam 建設現場にて  
鋼管杭打設デモンストレーションを実施**  
～ベトナムでの鋼管杭の普及に向け、コスト・性能の優位性をPR～

新日本製鐵株式会社は、ベトナム フーミーII工業団地内にて、当社の連結子会社で、ベトナムにおける鋼管杭・鋼管矢板の製造・販売会社である Nippon Steel Pipe Vietnam (以下 NPV) と共同で、鋼管杭の打設デモンストレーションを2010年10月26日から10月28日の3日間に渡り開催しました。

NPVは、現在、同工業団地で、2011年5月操業開始予定のスパイラル鋼管工場を建設中です。今後 NPV がこの工場より提供するスパイラル鋼管杭のコスト・施工優位性を、ベトナム国内で杭設計・施工に携わる幅広い層にPRし、鋼管杭需要捕捉に繋げることを狙いとして、デモンストレーションは工場建設現場で開催しました。

打設デモンストレーションでは、NPV の会社概要の紹介、進行中の杭打ち工事の施工概要、鋼管杭の利用技術に関わるプレゼンテーションを実施後、実際に鋼管杭の打設現場の見学を行いました。デモンストレーションには、ベトナム交通省、ベトナム交通大学の有識者を始め、コンサルタント関係者、杭打設会社及び商社関連を含め、3日間で合計約110名の参加がありました。

同地区はベトナム特有の地盤上層部に軟弱なオーガニックソイル層が堆積し、支持地盤の深さが5.5m超の土質条件です。支持杭が十分な支持力を保持し、長期的に沈下しないためには、6.0m程度まで長尺杭を土中に打ち込む必要があります。デモンストレーションでは、現場で実際に打設したデータを用い、鋼管杭が確実に深層の支持層に打込む事が出来ること、かつ打設速度もコンクリート杭に比較して優位であることを参加者に示しました。

また、鋼管杭の利用技術に関わる説明では、日本国内での実績をベースに、鋼管杭の一般的な港湾・河川分野、橋梁分野での適用事例の解説と共に鋼管杭の腐食設計の考え方、コンクリート杭との施工性の比較、施工法の違いによる支持力発現メカニズムの違い等を説明し、鋼管杭の基礎利用技術について幅広い説明を行いました。

ベトナムでの鋼管杭の利用は港湾エリアの一部に限定的であり、認知度・普及度は低位にある中、今回のデモンストレーションにより、鋼管杭のコスト・性能の優位性と適用分野の広がりをもベトナムの関係者に十分認識して戴いたと認識しています。さらに、来春以降新工場から競争力を持つ高品質な鋼管杭を提供する事により、さらなる需要拡大に繋がると期待しています。





(本件に関する問合せ先) 総務部広報センター TEL 03-6867-2135